

やさしい街

広報誌

No. 186

ふれあい
ネットワーク

さっぽろ市社協



福まちウィークにあわせて、平成23年9月14日（水）に「平成23年度福まち発地域福祉市民活動フォーラム」を開催し、439名の参加がありました。

基調講演では、日本福祉大学社会福祉学部社会福祉学科の原田正樹准教授より「災害時に備えての福まち活動のあり方」と題した講演を、事例発表・シンポジウムでは、豊平区西岡地区福祉のまち推進センターの国島紀雄センター長、白石区北白石地区北郷親栄第一町内会の田畑隆二会長からそれぞれの地域での取り組みを報告いただきました。また講演の前には、「福まち活動写真・広報紙コンクール」の表彰式を開催しました。

原田准教授から基調講演では、災害時には、平時の地域福祉活動が非常に大きな役割を果たしているということや、防災や地域福祉が進んでいる地域の共通の特徴等をお話しいただきました。また、2つの地区の事例発表を、見通しを持って計画的に事業に取り組んでいる点、地域関係者との連携を大事にしている点、地域が連携してまちづくりに取り組むという視点を持っている点、個人情報の問題に対する解決の方策について話し合いをよく行っている点、支援者不足の課題を抱えている点という5つの共通点にわかりやすくまとめていただきました。

CONTENTS

- 2・3 平成22年度福まち活動報告、福まちコンクール表彰結果
- 4 札幌市ボランティア研修センターから
- 5 地域福祉情報提供
- 6 シリーズ「これも社協の仕事」「区社協コイチ事業をご紹介」
- 7 札幌市共同募金委員会から
- 8 情報トピックス



本誌は赤い羽根共同募金の助成金で発行されています

「お互いに支え合うやさしい街づくり」の実現に向けて

(平成22年度の福まち活動状況から見えてくるもの)

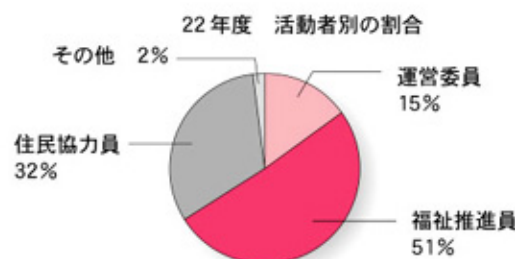
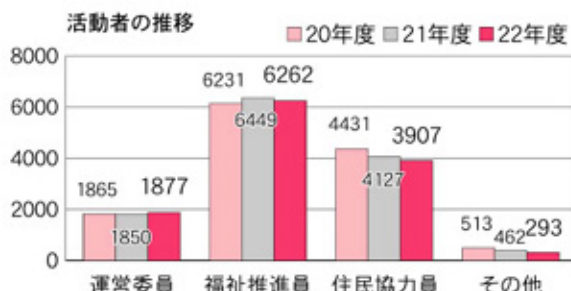
9月14日に開催された福まちフォーラムで報告された平成22年度の福まちの活動状況を報告いたします。

福まち活動の原点である「見守り・訪問活動」に取り組む地区が増加するなど、活動は着実に広がり、拡大しています。

1 福まちを支える活動者

活動者の内訳

	()の数字は前年度比
①運営委員 (運営委員会未設置は地区社協役員数で計上)	1,877人 (+27)
②福祉推進員	6,262人 (-187)
③住民協力員	3,907人 (-220)
④その他 (地域のボランティアグループや福祉除雪協力員など)	293人 (-169)



- ※運営委員 ~ 地域に身近な関係者で、地域の福祉課題に対して支援活動の内容や方法を検討します。
- ※福祉推進員 ~ 福祉課題に対して関係者と連携を図りながら支援活動を行います。
- ※住民協力員 ~ 見守りや安否確認など具体的な支援について福祉推進員とともに活動します。

福まち関係者の努力により、これまで一定の活動者数を確保してきましたが、今後は災害時等への取り組みも期待されることから、人材の確保・育成がより求められます。

2 福祉推進委員会 (福祉の会等) の設置

()の数字は前年度比

設置単位	地区数	範囲
① 単位町内会/単位	63地区 (-1)	992単町 (+1の単町増加)
② ブロック/単位	9地区 (+1)	39ブロック (+1の単町増加) ブロックのエリアにある単町数は180カ所、前年度比+1
合計	71地区 (+1)	1,172単町 (+2の単町増加)

- 単位町内会・ブロックと両方の設置単位が混在する地区が1カ所あるため、合計数は重複を除く数値となっています。
- ※福祉推進委員会 ~ 援助が必要な方の把握や見守り活動などを行う組織。各単位町内会への設置を目指しています (市内には約2,200カ所の単位町内会があります)。

福祉推進委員会の設置地区単位町内会数は昨年度とほぼ同数でした。各区社協では、福祉推進委員会活動セミナーを開催して、福祉推進委員会の立ち上げや活動支援を行っています。

3 援助世帯の状況

(1) 福まちが援助世帯として把握している世帯数/市内89地区合計

○42,994世帯 (前年比 +154世帯)

(2) 援助世帯の内訳

(単位:世帯)

	20年度	21年度	22年度	前年度比
①高齢者/一人暮らしの世帯	25,507	28,654	30,230	(+1576)
②高齢者/夫婦のみの世帯	10,205	11,009	9,171	(-1838)
③障がいのある方の世帯	522	647	388	(-259)
④子育て中の世帯	2,638	2,342	2,826	(+484)
⑤その他 (日中高齢者のみの世帯など)	335	188	379	(+191)
合計	39,207	42,840	42,994	(+154)

援助世帯数は昨年度より、若干増加しました。一人暮らし高齢者とともに、近年は三世代交流や子育てサロンへの取り組み拡大により、子育て世帯家庭への支援も増加しています。

(3) 援助世帯への日常生活支援での関わり

(単位：世帯)

	20年度	21年度	22年度	前年度比
①訪問	23,120	26,676	28,076	(+1400)
②除雪支援	1,632	1,651	1,696	(+45)
③外出支援	252	234	396	(+162)
④家事や育児の支援	2,606	1,709	2,082	(+373)
⑤介護支援	228	242	133	(-109)
⑥その他(見守り・業とり など)	6,009	6,576	6,043	(-533)
合計	33,847	37,088	38,426	(+1338)

4 要援助世帯の把握や記録(調査活動)

把握や記録の方法

(単位：地区)

	20年度	21年度	22年度	前年度比
①ふれあいカードなどで把握している	63	55	56	(+1)
②援助世帯のニーズ調査を実施している	38	38	37	(-1)
③福祉マップを作成している	18	23	23	(0)
④住民の意識調査を実施している	9	12	12	(0)

調査活動では、前年度とほぼ同数でしたが、福祉マップの更新や災害時要援護者避難支援事業に取り組む地区があるなど既存事業を発展させた取り組みを行う地区が見られました。

5 ふれあい・交流の場づくり(ふれあい交流活動)

(単位：地区)

	20年度	21年度	22年度	前年度比
①会食・配食会	61	63	65	(+2)
②入浴会	33	35	32	(-3)
③ミニサロン・ミニデイ	52	59	52	(-7)
④異世代交流	52	51	51	(0)
⑤子育て支援(サロン/主催・共催・協力)	71	72	68	(-4)
⑥介護予防活動(すこやか倶楽部や転倒予防教室などの共催・支援)	36	40	33	(-7)
⑦相談活動(相談室の開設・電話相談など)	39	38	42	(+4)
(()内は、相談活動を実施している地区のうち相談所の開設数が週1回以上の地区数)	(34)	(36)	(41)	(+5)

ふれあい交流活動は一部の項目において減少しましたが、例年同様、「ミニサロン・子育てサロン」を実施する地区が全体の約6割を占めるなど活動が盛んに行われております。こうした動きは、単位町内会など小地域での活動を推進していく体制の整備にもつながっており、「福祉推進委員会」の設置を後押しする大きな要因にもなってくると思われま。

東日本大震災において改めて見直されている身近な地域での支え合い活動は、各地区福祉のまち推進センターがこれまで重点的に取り組まれてきた活動です。身近な地域での支え合い活動に多くの関心が集まっている今こそ、本会では、地域のつながりを再認識する機会と考え、地域の皆様と一緒に福まち活動の充実に取り組んでまいります。

平成23年度 福まち活動写真及び広報紙コンクール入賞地区のご紹介

福まち活動写真コンクールには、36地区66作品、福まち広報紙コンクールには31地区31作品のお申込みがありました。お申込みをいただいた地区福祉のまち推進センターにお礼を申し上げます。

なお、それぞれのコンクールで入賞された地区福祉のまち推進センターは下記のとおりです。

福まち活動写真コンクール

賞	区	地区
最優秀賞	手稲区	手稲鉄北地区
優秀賞	豊平区	西岡地区
	西区	発寒北地区
審査員特別賞	北区	太平百合が原地区
	東区	苗穂東地区
	清田区	清田地区
佳作	南区	藻岩下地区
	東区	苗穂東地区
	白石区	菊水地区
		白石東地区
	厚別区	厚別東地区
	豊平区	美園地区
		月寒地区
南区	藤野地区	
西区	西町地区	

福まち広報紙コンクール

賞	区	地区
最優秀賞	豊平区	月寒地区
優秀賞	白石区	東白石地区
	南区	藤野地区
審査員特別賞	東区	北栄地区
	白石区	菊水地区
		北東白石地区
手稲区	手稲鉄北地区	
佳作	北区	太平百合が原地区
	東区	栄東地区
		厚別区
	豊平区	厚別南地区
		南平岸地区
	清田区	清田中央地区
	南区	石山地区
西区	西町地区	

入賞地区の作品は、本会ホームページにてご覧いただくことができます。

さっぽろの災害出張講座人気!

～市民の災害に対する関心高まる～

札幌市ボランティアセンターでは、町内会や企業、老人クラブ、ボランティアグループなどに講師を無料で派遣し、ボランティア活動や地域福祉活動の理解を深める出張研修会を実施しています。

今年度は、3月11日に多くの尊い命が犠牲となった東日本大震災の影響もあり、災害に関する出張講座の依頼が大変多くなっており、(10月11日現在、依頼数34カ所)

災害について改めて知り、地域に防災・減災の意識を広げたいという地域の代表者の思いを感じます。この出張講座では、災害ボランティアセンターマニュアルの作成や東日本大震災の被災地支援活動に関わった札幌市ボランティアセンターの職員が地域に出向いて、「札幌で災害が起きたら・・・」「札幌市・区災害ボランティアセンターの役割」、「災害時における地域の見守り体制」などをお話しさせていただいております。話しを聞いた方は、「町内会でも取り組んでいるので参考にしたい」「毎年、このような研修を開催すべき」「あとは、地域でどう行動に結びつけるかが課題」などと言った意見が寄せられています。

また、前号で紹介しました「障がい者講師派遣～障がい出張講座」も好評で、学校・企業などから、「聴覚障がい・手話の基本」「視覚障がい・アイマスク体験」の依頼が多く、昨年度と比較すると約1.5倍の依頼数になっています。(10月11日現在 依頼数44カ所)

なお、昨年度から実施している「地域見守りサポーター養成講座」も好評で、地域に暮らす高齢者等の異変になげなく気にかける意識を持ったサポーターを3年間で5000人養成し、孤立をさせない地域づくりを目指しています。出張講座を中心に、現在は、約2,200名の方がサポーターとなっております。土日、夜間なども対応しておりますので、お申込みをお待ちしております。



(写真：清田区里塚美しが丘地区福まち研修会)

～収集ボランティア情報～

札幌市ボランティアセンターでは、ご家庭等で廃棄されるペットボトルのキャップや古切手などを市民の皆様へ寄贈いただき、関係団体を通じて海外支援に役立てる活動を実施しています。

皆様からお寄せいただいた「ペットボトルのキャップ」(215kg)をNPO法人全国障害者福祉援護協会北海道地区本部に「リングプル」(150kg)をリングプル再生ネット(江別市)に、「切手」(93kg)を公益社団法人日本キリスト教海外医療協会にそれぞれお届けしています。

北海道におけるキャップ受入については、ここだけで行っており、学校・企業などから1日平均600kg～700kgを受け入れているとのこと。

このキャップは、粉碎され、リサイクル会社に原料として払い出して、売上代から「ワクチン代」を寄付しています。(現在は、東日本大震災の義援金として寄付)

ペットボトルのキャップは、札幌市ボランティアセンターの事務所及び各区社会福祉協議会の事務所でも集めておりますので、ご協力くださいますようお願いいたします。

(9月末現在)

リングプル	キャップ	切手	えんぴつ
386kg	50,240個	106kg	530本

札幌市ボランティア研修センター 各種研修会のご案内

1日福祉セミナー～介護保険制度、どう変わる?

- ▼内 容/2012年介護保険制度が改正される予定となっており、その動向を伝えます。
- ▼日 時/12月9日(金)13:30～15:30
- ▼講 師/札幌市介護保険支援専門員連絡協議会
会 長 村山 文彦 氏
- ▼場 所/札幌市ボランティア研修センター 第1研修室
- ▼申込方法/電話かFAX
- ▼定 員/40名(先着順) ▼受講料/500円

ボランティアウィークセミナー

- ▼内 容/ボランティアウィーク(12月1日～7日)にちなんで開催する講座で、今年のテーマは「子ども」。
- ▼日 時/①12月1日(木)10:00～12:00
「子どもたちへの食育を考える」
NPO法人 北海道食の自給ネットワーク
事務局長 大熊 久美子 氏
②12月1日(木)13:00～15:00
「児童虐待の理解を深める」
児童養護施設 札幌育児園園長 千葉 徹 氏
- ▼場 所/札幌市ボランティア研修センター第1研修室
- ▼申込方法/電話かFAX ▼定 員/50名(先着順)
- ▼受講料/500円(各講座)

お問い合わせ・出張研修のお申込み先

札幌市ボランティアセンター(札幌市中央区北1条西9丁目リンケージプラザ2階)
電話:011-223-6005 FAX:011-261-8881

* 総合支援資金制度のご紹介 *

～失業者等の生活をお手伝いします～

社会福祉協議会では、他の貸付制度が利用できない低所得者や高齢者や障がい者の生活を資金の貸付けと必要な相談・支援により経済的に支えるとともに、社会参加の促進を図り、安定した生活を目指すことを目的とした「生活福祉資金」の貸付けを行っております。

本貸付制度は、北海道社会福祉協議会を実施主体として、本会並びに各区社会福祉協議会が窓口となって相談・援助を行っております。この制度は、低所得世帯、高齢者世帯、障がい者世帯の世帯単位に、それぞれの世帯状況と用途目的に合わせた資金、例えば、就職に必要な知識・技術等の習得や高校・大学等への就学、介護サービスを受けるための費用等の貸付けを行うものであります。

平成21年10月からは、厳しい経済危機のもとで、失業等による生活困窮が広がっている状況等を踏まえ、低所得者や失業者等の生活再建に向けた新たなセーフティネットの一つとして、継続的な相談支援と併せて、生活費及び一時的な貸付けを行う「総合支援資金」の創設等の制度改正が行われ、札幌市では、平成23年9月までに延べ1,238件の総合支援資金のご利用があります。

○総合支援資金の対象となる世帯

失業等で日常生活全般に困難を抱えており、生活の立て直しのために継続的な相談支援（就労支援・家計指導等）と生活費及び一時的な資金を必要とし、貸付を受けることにより自立が望まれる世帯で、次の要件のいずれにも該当する世帯。

- ① 低所得世帯であって、収入の減少や失業等により生活が困窮し、日常生活の維持が困難となっていること
- ② 公的な書類等で本人確認ができること
- ③ 現に住居を有していることまたは住宅手当緊急特別措置事業における住宅手当の申請を行い、住宅の確保が確実に見込まれること
- ④ 社会福祉協議会及び関係機関から、貸付け後の継続的な支援を受けることに同意していること
- ⑤ 社会福祉協議会が貸付及び関係機関とともに支援を行うことにより、自立した生活を営めることが見込まれ、返済が見込まれること
- ⑥ 失業等給付、職業安定資金融資、生活保護、年金等の他の公的給付または公的な貸付けを受けることができず、生活費を賄うことができないこと

○総合支援資金の内容等

資金名	生活支援費	住宅入居費	一時生活再建費
使 途 内 容	生活再建までの間に必要な生活費用（貸付期間12月以内）	敷金、礼金等住宅の賃貸契約を結ぶために必要な経費	生活を再建するために一時的に必要なかつ日常生活費で賄うことが困難である費用
貸付限度額	月額20万円以内 (単身世帯は月額15万円以内)	40万円以内	60万円以内
連帯保証人	原則として1名必要※貸付利子を支払うことで連帯保証人なしでも貸付可		
貸 付 利 子	連帯保証人を立てる場合は無利子、連帯保証人を立てない場合は年1.5%		
据 置 期 間	最終貸付日から6月以内		
償 還 期 限	据置期間経過後から20年以内		

※詳細については、本会へお問い合わせください。なお、面談に関しては事前予約が必要になります。

○その他

総合支援資金以外にも、福祉資金、教育支援資金、不動産担保型生活資金、特別生活資金（冬季生活資金）、応急援護資金という貸付を行っております。これらの制度の詳細につきましては、生活福祉係（8ページ参照）へお問い合わせください。

シリーズ「これも社協の仕事」

シリーズ「これも社協の仕事」の第4回目は、社会福祉施設との連携を深め、福祉施設職員の資質向上を図るための各種研修会等を実施している札幌市施設福祉部会について紹介します。

【札幌市社協施設福祉部会とは】

本会の社会福祉施設関係事業を円滑に推進するため、社会福祉施設に共通する諸問題等について協議し、研究及び情報提供や施設職員の資質向上のため札幌ボランティア研修センターとタイアップして各種研修会等を開催しており、17名の部会員で構成されています。

【活動内容】

○部会会議の開催

○大都市社会福祉施設協議会への参加

大都市（政令指定都市）の社会福祉施設相互の連携を図り、大都市における社会福祉施設問題を研究協議するとともに、問題の解決に努め、社会福祉施設の社会的責任・専門性の充実と向上を目的に政令指定都市の輪番制により開催しています。

○札幌市民間社会福祉施設中堅職員国内派遣研修事業

福祉施設職員の資質向上を図るため、中堅職員に共同募金の助成金等を活用し、先進的活動の視察・見学や研修会の参加費用の助成をしています。

※本会ホームページに平成22年度に助成を受けて研修に参加した施設職員の皆さんの参加報告を掲載しています。

○「救急法セミナー」の開催

社会福祉施設の新任職員を対象に、正しい知識や方法を体得し、施設利用者等の安全を守ることを目的に開催しています。

○「新人施設職員セミナー」の開催

社会福祉施設に新しく就職した職員の資質向上や情報交流を目的としたセミナーを開催しています。

○出会いふれあいバザールの開催

札幌市内の障がい者福祉施設や、小規模作業所の製品を販売する機会を設け、広く市民の方々に施設や作業所の役割や機能、障がい者に対する理解を深めてもらうことを目的に開催しています。



【今後に向けて】

今、福祉施設は、地域における福祉ネットワークづくりが求められています。施設福祉部会では、社会福祉施設が地域社会の中でどのような役割を果たすことができるのか、区社協はじめ関係団体との更なる連携について検討してまいります。

区社協コイチ！事業をご紹介

北区社協

地域連携の在り方を協議する全体会議の開催

北区社協では、今年度、北区役所との共催で、地域での孤立防止や日常生活の困りごとを抱えている方々の支援の在り方について、連町・地区社協（福まち）・地区民児協・区老連の代表者44名による関係団体の相互の役割について検討する全体会議を開催しました。

6月30日（木）の初会合では、各々の連携の在り方について、解決すべき課題等が議論され、10月20日（木）に開催された第2回目の会議では、「見守り・支え合い」についてのパネルディスカッションが行われました。パネリストからは、「見守り・支え合い活動は、単位町内会（福祉推進委員会）ごとに進めていく必要があり、相互理解を深めるためには、町内会役員・民生委員・福祉推進委員の連携が重要であり、そのためには、話し合いや交流の場を多く持つことが必要である。」など活発な意見が出されました。

今回の協議内容をそれぞれ地域に持ち帰り、団体内及び団体間の取り組みについて協議いただき、地域連携の充実に向けて関係者全体が更なる議論を進めていくこととなりました。

2回の全体会議を通じて、地域関係者に「関係団体との密なる連携」の必要性が地域福祉を推進する上で極めて重要であることが確認されました。

北区社協では、平成24年度に、地域関係団体が丸となった「お互いに支え合う地域社会」の実現を目指して、「見守り・支え合い活動」に取り組むための助成金の交付を行いたいと考えております。





札幌市共同募金委員会から

平成23年度街頭募金結果のお知らせ

10月1日から始まりました今年の街頭募金は、悪天候の影響で募金活動が中止となる日があったにもかかわらず、全市で4,583,044円の善意の募金が集まりました。

10月7日(金)には、途中から雨が降り出す中、札幌市立大通高校の生徒さん約700名が大きな声で呼びかけを行いながら街頭募金活動に取り組んでいただきました。

募金活動に取り組んでいただいた活動者の皆様、募金にご協力をいただきました皆様の温かいご支援・ご協力に心よりお礼を申し上げます。



歳末たすけあい募金にご協力をお願いします

「歳末たすけあい運動」は、共同募金運動の一環として、実施しています。

この運動は、戦後の混乱期に、住民の助け合いの精神により、生活に困窮する人々に対する物資の持ち寄り運動として始まりました。

その後、時代や福祉課題の変化に応じながら、歳末たすけあい募金の寄付金は、新たな年を迎える時期に障がい者の支援や地域住民が取り組んでいる「ふれあい・いきいきサロン」の助成等、様々な福祉活動に活用されています。

○期間：12月1日(木)から12月31日(土)

○募金受付場所：札幌市共同募金委員会並びに各区共同募金委員会(各区社会福祉協議会)

○詳細：札幌市共同募金委員会(011-614-3532)

受賞おめでとうございます

長年に渡り、共同募金運動にご協力をいただいた方々や団体が9月8日(木)に稚内市で開催された第61回北海道社会福祉大会において、北海道共同募金会会長表彰を受賞されました。10月24日(月)には、北海道社会福祉大会を欠席された被表彰者への表彰状伝達式を開催しました。

〈永年勤続奉仕者 4名〉

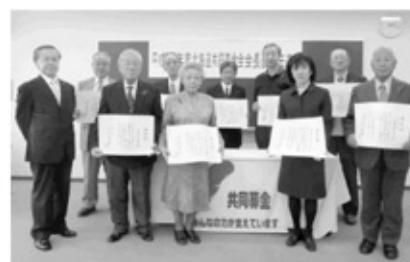
越後 和子 様、中西 哲男 様、小竹 邦雄 様、板東 夫佐子 様

〈優秀地区・団体 10団体〉

平岸地区町内会連合会 様、西岡地区町内会連合会 様、札幌市清田区老人クラブ連合会 様、南沢町内会 様、川沿第四町内会 様、常磐団地町内会 様、常磐1区町内会 様、真駒内アートパークタウン町内会 様、アルカサーノ琴似自治会 様、星置地区カシオペア町内会 様

〈優秀学校 3校〉

札幌市立平岡中学校 様、札幌三育小学校 様、札幌市立美香保小学校 様



『力』を合わせると、未来が明るいワン



協信電気工業株式会社
〒060-0013 札幌市中央区北13条西15丁目6番22号
TEL (011) 736-8311 FAX (011) 736-8318

AV&CCシステム、施工

株式会社 東伸通工

代表取締役 西尾 和 則

〒065-0016 札幌市東区北16条東18丁目1番6
電話 783-6223 FAX 783-6202

ご寄付ありがとうございました

(札幌市社会福祉協議会愛情銀行)

9月受取分

- ★松緑神道大和山第26回
チャリティーバザー札幌 様 220,000円
- ★札幌市保養センター駒岡陶芸教室
「陶寿房」 様 49,389円



松緑神道大和山第26回
チャリティーバザー札幌 様



札幌市保養センター
駒岡陶芸教室「陶寿房」 様

10月受取分

- ★(株) ツルハグループ
マーチャンダイジング 様
ユニチャーム (株) 様
車椅子10台
- ★松井武司歌謡カラオケ札幌教室 様 12,300円
- ★さっほろ旭山うた祭りの会 様 100,000円
- ★フラワーショップ花れん 様 660円



(株) ツルハグループマーチャン
ダイジング、ユニチャーム (株)

札幌市社会福祉協議会の連絡先

〒060-0042
札幌市中央区大通西19丁目1番1号 札幌市社会福祉総合センター内

代表	011-614-3345
総務課	011-614-3343
札幌市社会福祉総合センター	011-614-2948
地域福祉課地域福祉係	011-614-3344
生活福祉係	011-614-0169
FAX (上記共通)	011-614-1109
情報センター資料室	011-614-2001
FAX	011-615-2666
自立支援課	011-612-6110
高齢者・障がい者生活あんしん 支援センター (相談係)	011-632-7355
FAX (上記共通)	011-613-5486

〒060-0001
札幌市中央区北1条西9丁目 リンケージプラザ2F

札幌市ボランティア研修センター	011-223-6005
札幌市ボランティアセンター	011-219-1737
FAX (上記共通)	011-261-8881

札幌市社会福祉総合センター・札幌市ボランティア研修センターでは会議室、研修室の貸出を行っています。ボランティア活動や市民活動の打ち合わせや研修の場としてご利用ください (受付時間：月曜日から金曜日 8:45～17:15)。

身近な地域福祉情報は、お近くの区社会福祉協議会の
広報誌・ホームページをご覧ください。

ホームページアドレス <http://www.sapporo-shakyo.or.jp/>

札幌市社会福祉協議会広報誌「やさしい街」
通巻186号 2011年11月25日発行
発行/社会福祉法人札幌市社会福祉協議会

- * ホームヘルパー養成講座2級通信課程
受講期間3か月 添削課題 4回提出→スクーリング8回→実習5日間
スクーリング欠席の補講はもちろん無料で受けられます!
- * 介護保険事務士上級e-ラーニング
いつでもどこからでも PCさえあれば自由に学べる e-ラーニングシステム!
コンプライアンス・労務管理・請求事務等即戦力になる知識講義です!
- * 介護福祉士受験対策講座
DVDを使用した通信講座! 今からでも最終チェックしませんか?
11月・12月の模擬試験のみの受験も可能!
1回 6,000円! で今までの力を試してみませんか?

求職者支援訓練 1月・2月・3月 (月寒教室) 同時募集中!

詳しくは・・・【今すぐHPへGO!!】

<http://www.tsushimakinen.ac.jp>

【Mailでのお問い合わせ先】

m_kobayashi@tsushimakinen.ac.jp



●お問い合わせ 医療・福祉の現場から誕生した
学校法人つしま記念学園

専門学校日本福祉学院
札幌市中央区南1条西4丁目5-1 札幌大手町ビル9階
連絡先 011-218-7400

賛助会員の募集

札幌市社会福祉協議会では、活動に賛同し協力していただける賛助会員を募集しています。皆様からいただいた賛助会費は、札幌市の地域福祉を推進する貴重な財源として、様々な事業に役立てています。本会の活動の趣旨をご理解いただき、地域福祉のサポーターとして、お互いに支え合う街づくりの実現のため、ご協力をお願いいたします。

【年会費】

- 個人 (1口) 1,000円 ■団体 (1口) 10,000円
- 問い合わせ先 総務課 (011-614-3343)

情報センター資料室より

今回のオススメ

『震災の「心の傷み」を癒す方法』

倉成 央 著 大和出版

震災以降、実際に被災していなくても、精神的ショックを受けたり、何もできない罪悪感を感じているという方も少なくないのではないのでしょうか。本書では、そんな方のために、心理カウンセラーが、悲しみや怒りを受け止め、立ち直る方法を一緒に考えていきます。



企画から印刷・製本まで
トータル技術で社会に貢献する



SK 株式会社 さんけい

〒063-0850 札幌市西区八軒10条西12丁目2-48
☎ (011) 611-8866 (代) FAX (011) 611-0422